

# がんばっぺし 大船渡!



4市5町から職員を派遣



## ■震災の現状から学ぶこと

3月11日に宮城県三陸沖を震源とした「東日本大震災」は大津波を発生させ、東北地方に甚大な被害を及ぼしました。

錦江町は全国6市町で組織する「銀河連邦」として、災害協定を結んでいた肝付町の支援に協力し、大隅半島4市5町の復興支援チームを立ち上げ、岩手県大船渡市へ向かいました。

錦江町からは4月3日に第1陣として2名参加し、現地での復興支援にあたりました。早朝から支援物資の搬入搬出や仕分け作業、給水作業、警備作業に分かれ活動を行いました。

現地は、がれきや車など散乱し、魚や汚水などの異臭で大変な状況でした。

しかしながら、行った先々で「遠くからありがとう。」「寒いから風邪を引かないようにね。」など、被災者の方々から多くの元気をいただきました。

【がんばっぺし】いたる所でこの方言を聞きました。【共にがんばろう!】という意味です。「支援をしてもらう、がんばって!」ではなく「一緒にがんばろう!」とこの方言からも学べました。

今回の派遣で、被災地から多くの事を学び、人と人の絆や温かさに触れる事ができました。

今後、錦江町の防災計画や防災意識、地域のあり方に活かしていければと思います。

4月11日には、物的支援だけではなく人的支援も長期的に行えるよう災害支援本部を大隅半島4市5町で大船渡市内の公民館に開設しました。

現在も順次職員が派遣されていますが、震災を共に乗り越え、安心して住める町づくりが出来ればと思います。